

肺炎球菌ワクチンの勧め

インフルエンザが流行した場合に、必ず問題となるのはその合併症です。今回の新型インフルエンザでも同じことが言えます。合併症の中では肺炎併発による重症化・死亡が最も心配されています。ここで起こる肺炎は、細菌性によるものが多く、その3〜4割は肺炎球菌が原因と言われています。特に呼吸器に基礎疾患を持つ人、心疾患・腎疾患・糖尿病がある人・高齢者では注意が必要となります。

肺炎球菌に対しては、ワクチンが使えます。日本で承認されている肺炎球菌ワクチンは「ニューモバックスNP」だけです。接種対象者は「2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高い個人および患者」で、1回の接種で23種類の肺炎球菌に免疫をつけることができます。免疫は5年以上にわたって続くのです。ただし、10年以上の効果は保障されておりません。再接種に関しては、日本では副作用を考慮して1回しか接種できないことになっております。

新型インフルエンザの発生によ

り、肺炎の流行が懸念されているおり、全国では高齢者（70歳以上）の肺炎球菌ワクチン接種に対して公費助成を行う自治体が増えております。那須町においては、平成21年4月より助成が受けられますので、肺炎球菌ワクチン接種をぜひお考えください。

肺炎球菌ワクチン関連ニュースをもう一つ。平成21年8月31日に、乳幼児向け肺炎球菌ワクチン「プレベナー」が承認されました。7種類の肺炎球菌に対し免疫をもたらしめます。接種回数は4回、皮下接種となります。平成22年早々には接種可能となります。

文 立花医院 立花隆司先生